



N2 / A / AN / V : 常体形。ただし、「Nだ Nな」「ANだ ANな」

## 基本

### 例文

① 今日<sup>きょう</sup>は月曜日<sup>げつようび</sup>なので、美術館<sup>びじゅつかん</sup>は開いていません。

② この町<sup>まち</sup>は観光地<sup>かんこうち</sup>ではないので、ホテル<sup>すく</sup>が少ないです。

③ (ガイド<sup>せつめい</sup>の説明<sup>き</sup>を聞いているとき)

まわりがうるさいので、よく聞こえません。もう少し大きい声<sup>すこ おお こえ はな</sup>で話してください。

④ 日光<sup>にっこう</sup>では紅葉<sup>こうよう</sup>がとてもきれいだったので、たくさん<sup>しゃしん と</sup>写真を撮りました。

⑤ 道<sup>みち</sup>がわからなかったので、交番<sup>こうばん</sup>で聞きました。

⑥ A: ここ、「富士見<sup>ふじみ</sup>が丘<sup>おか</sup>」という

んですか。

B: ええ、昔<sup>むかし</sup>はここから富士山<sup>ふじさん</sup>が

よく見えたので、「富士見<sup>ふじみ</sup>が丘<sup>おか</sup>」

という名前<sup>なまえ</sup>になったんですよ。

今は、建物<sup>たてももの</sup>でほとんど

見えませんが。



例文 ⑤

A. 「<sup>あらわ</sup>ので」は、S1がS2で表されていることの理由であること<sup>りゆう</sup>を示す<sup>しめ</sup>。(例文①～⑥)

先生へ

「<sup>あらわ</sup>ので」は、「<sup>たうろう</sup>だろう」「<sup>でしやう</sup>でしょう」のあとにはつかない。

「<sup>あらわ</sup>ので」とほかの理由<sup>りゆう</sup>を述べる表現<sup>ひやうげん</sup>との違い<sup>ちが</sup>

S1 <sup>あらわ</sup> ので S2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S2は、現実<sup>げんじつ</sup>の行動<sup>こうどう</sup>や状況<sup>じやうきやう</sup>。</li> <li>・S2が意志<sup>いし</sup>的な表現<sup>ひやうげん</sup>の場合<sup>ばあい</sup>、話し手<sup>はな</sup>の考え<sup>て</sup>、意志<sup>かんが</sup>を和らげ<sup>いし</sup>、丁寧<sup>やわ</sup>な感じ<sup>ていねい</sup>を与える<sup>かん</sup>。</li> </ul>
S1 から S2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S2は、話し手<sup>はな</sup>の意志<sup>て</sup>や考え<sup>いし</sup>。</li> </ul>
S1(A / AN / V)で S2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・S1は、S2より時間<sup>じかん</sup>的に前<sup>まえ</sup>に起こること<sup>お</sup>。</li> <li>・S2は、S1の当然<sup>とうぜん</sup>の結果<sup>けつ</sup>。話し手<sup>はな</sup>の意志<sup>て</sup>的な表現<sup>いし</sup>はこない<sup>ひやうげん</sup>。</li> </ul>
Nで S2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Nには、マイナス<sup>けつ</sup>の結果<sup>か</sup>をもたらす<sup>めいし</sup>名詞<sup>お</sup>が多い。</li> <li>・S2は、Nの当然<sup>とうぜん</sup>の結果<sup>けつ</sup>。話し手<sup>はな</sup>の意志<sup>て</sup>的な表現<sup>いし</sup>はこない<sup>ひやうげん</sup>。</li> </ul>

\* 意志<sup>いし</sup>的な表現<sup>ひやうげん</sup>とは、依頼<sup>いらい</sup>（「<sup>V</sup>てください」など）、意志<sup>いし</sup>（「<sup>V</sup>ようと思います」など）、願望<sup>がんぼう</sup>（「<sup>V</sup>たいです」など）、誘い<sup>さそ</sup>（「<sup>V</sup>ましょう」など）、禁止<sup>きんし</sup>（「<sup>V</sup>てはいけません」など）

例1 <sup>こ</sup>混んでいたので、ジェットコースター<sup>の</sup>に乗るまで1時間<sup>じかん</sup>待ちました。

2 もうすぐ<sup>しゅっぱつ</sup>出発<sup>いそ</sup>しますから、急いで<sup>いそ</sup>ください。

3 <sup>あめ</sup>雨が降<sup>ふ</sup>って、ピクニック<sup>ちゆうし</sup>が中止<sup>ちゆうし</sup>になりました。

4 <sup>じこ</sup>事故<sup>こうそくどうろ</sup>で高速道路<sup>じゅうたい</sup>が渋滞<sup>じゅうたい</sup>しました。

「<sup>けいたい</sup>敬体<sup>つか</sup>+<sup>つか</sup>ので」も使う<sup>つか</sup>ことがある<sup>つか</sup>が、使う場面<sup>つか</sup>が限<sup>かぎ</sup>られ、かなり<sup>ひやうげん</sup>ていねいな表現<sup>ひやうげん</sup>になるので、ここでは

「<sup>じょうたいけい</sup>常体形<sup>れんしゅう</sup>+<sup>れんしゅう</sup>ので」だけ<sup>れんしゅう</sup>を練習<sup>れんしゅう</sup>したほうがよい。

例（<sup>かんこうあんないじよ</sup>観光案内所<sup>じよ</sup>で）

A: すみません。市内<sup>しんない</sup>の地図<sup>ちず</sup>がほしいんですが。

B: あちら<sup>つくえ</sup>の机<sup>うえ</sup>の上に<sup>じゆう</sup>ありますので、ご自由<sup>と</sup>にお取り<sup>と</sup>ください。

【関連項目】

- 活-05 常体形
- 文-31 Vて
- 助-25 から（理由）
- 助-27 で（原因/理由）

【「れんしゅう編」の練習】

- 16-5 すずめのお宿
- 16-6 ぜひ、わたしの町に来てください